

昭 和

地域ニュース

No. 46

令和4年(2022年)

10月号

発行 中野区昭和区民活動センター運営委員会
編集 広報部会 昭和地域ニュース編集会議
〒164-0001 中野区中野 6-16-20
TEL : 03(3368)8164
FAX : 03(3368)8168
E-mail:nakano_showa@nifty.com
http://www.nakano-showa.gr.jp/



我が家のアイドル

東中野3丁目のそら(猫)とりく(犬)です。程良い距離感を保ちながら、仲良くしています。

昭和通り二丁目商店会 物語②

前回に引き続き、昭和通り二丁目商店会を取り上げます。今は所狭しとビルやマンションが立ち並び当時の面影はありませんが、様々なお店が軒を連ね、活気にあふれていた時代の地域の様子を想像してみてください。

編集部:戦後間もなく、今の石坂整形外科の辺りに大相撲の照國道場があったそうですね。



須藤美奈子さん

須藤:照國道場はうちの隣でした。秋田の日本酒醸造元の大きな東京別邸が疎開した跡地に、空襲で焼け出された横綱照國さんが道場を作りました。相撲部屋ではなく道場。照國さんは色の白い上品な横綱で、道で出会った時に「こんにちは」と挨拶すると、ニコニコと挨拶を返してくれるとても感じの良い方でした。近所の人たちは皆、垣根越しに道場を見ていました。横綱を作るところも見ました。マゲを結えない若いお相撲さんたちが、細いさらしを燃って作るんです。「ひのふのみ」「お、一、二、の三」と威勢のよい掛け声をかけて、細い綱を何本も燃って太い横綱にするんです。見る見るうちにお相撲さんの顔が真っ赤になり、力を使うんだなと思いつつ、皆でお相撲さんと一緒に声を掛けましたね。

照國道場の跡地を買い取って、1949(昭和24)年に将棋連盟が入りました。木村名人、大山名人、升田九段などが出入りされていました。お侍みたいな感じでした。升田さんは吞兵衛でしたね。

石坂:将棋連盟には、当時研修生が複数住み込んでいて、広い庭の掃き掃除から風呂焚きなどの修行をしながら、プロ棋士を目指していたようです。広い庭には、土俵の跡がありました。暇な時には退屈していたお兄さん方に遊んでもらいました。ひふみんこと加藤一二三さんもいましたね。テレビでしか見る事のなかった「大山」「升田」といった有名人を直に見て、不思議な気がしたものです。



東明美さん

東:床屋さんに聞くと、将棋を指す方は対局の前に散髪に来ることが多かったようですが、一手指すのに何時間も熟考するのに、せっかちな方が多かったようです。加藤一二三さんはすごく美男子だったそうです。

石坂:升田名人がたまに息子さんを連れて来ていらして、持っていたおもちゃの2丁拳銃がうらやましかった覚えがありますね。将棋連盟は1961(昭和36)年に、千駄ヶ谷へ移転しました。

須藤:石坂さんのお向かいには、五つ子ちゃんの治療医として有名な先生のお宅がありました。

石坂:玄関先に、白馬が後ろ足で立っていなくて立派な彫像がありました。

須藤:先生が午年生まれだから、ということでした。

石坂:私たちがまだ仙台にいた頃、空襲に遭った新派俳優の花柳章太郎さんが、隣家が新派の演出家の大江良太郎さんがお住まいだった縁で、我が家に仮住まいされていました。母が田舎から贈った野菜に対して、大根を描いたお礼状をいただき

ました。今も大事に飾ってあります。大根と大根役者を掛けて、とてもユーモラスで楽しいお手紙です。



昨日 拝啓
お製作品、御患みいただき
野菜不足の折から
大いに助かりました
私宅は 女子まかせ
商売柄 大根は
無用のはずですのに
是も又 別の芸かと
恥じ入ります
十二日にはお待ち申します
師走 十日夜
章太郎

編集部:たくさんあったお店が減ったのは、スーパーができた関係でしょうか。飯田百貨店(現コモディイダ)ができたのが1967(昭和42)年ですが、

後藤:飯田百貨店は土地を買い取ったので、50年くらい経った今でも営業できていますね。うちはパン屋をやっていましたが、飯田ができてから随分客が減りました。他の多くの店がやめたのも、自然な流れですね。私のところは、家が古くなって建て替えた18年くらい前にやめました。うちは最後まであった方です。近所の店はその前になくなっていました。うちの西隣が床屋さんで石坂さんずっと客でした。向かいに、平成元年ファミレスのサンデーサン(現COCO'S)ができたんですが、その前はガソリンスタンドでした。日本で一番安いガソリンとして有名でした。1リットル80円くらいでした。



平野昌美さん

平野:魚屋さん・肉屋さん・八百屋さんなどの生鮮食料品店が一番先になくなっていきました。勤め帰りは、いつも東中野銀座か落合の方から帰ってました。東中野銀座には魚屋さんや肉さんが2軒ずつあったんですが、サミットがきたらなくなりました。商店会がなくなったのは父が亡くなった後でしたが、店がどんどんなくなりさびれていくたびに、晩酌しながら涙ぐんでいたことが記憶にあります。寂しがってました。

後藤:飯田百貨店ができて随分変わりましたよね。それと、借家が多かったのが住んでる方が引っ越し、ビルができる時代背景とともに変わりました。今きちんとした形で残っているのはお寺さんだけです。酒屋の「かどや」の格天井(ごうてんじょう)となまこ壁は当時のままです。かどやの裏の銭湯に行くと、3時、4時におじさんたちが来ていて、いたずらっ子だったからいろいろ注意されました。商店がなくなった頃に、銭湯も消えていきました。



かどや

その後はマンション。天神湯はまだありますが、かつては文園湯もありました。龍昌寺の住職が町会長をやっていた時には、本堂を町の社交場にしたり夏休みに子どもの勉強会をしたりしてました。勉強ができるお姉さんが教えてくれたり、卓球台があったので遊んだり、一日中いられました。一番ほっとする場所でした。

平野:子ども会の餅つきもしましたね。昔は大きな鍋にあんこをたくさん作ったり、大きな大根をおろしたりしました。子ども会のお母さんたちが手分けしていろいろ作って、持ち寄りもありました。境内ではお祭りの夜店もやりました。夏休みの勉強会では高学年の子は本堂の拭き掃除もしました。

編集部:地域の皆さんがお互いに顔見知りで、一体感があったんですね。

後藤:女性が裏で支えてましたね。ご主人は仕事で忙しく、商店会の集まりがあると遅くなるのを支えてました。お祭りの時には商店会の力は大きかったです。昭二のお店はすごくお菓子がもらえると評判でした。うちもたまごパンをさしあげていました。12月から1月くらいは、当番制で毎晩夜警をしてました。半ば強制で。他の町会もみんなやっていたですね。

石坂:子どもは、夜外に出られるからうれしかったですよ。夏休みにはラジオ体操もやりましたね。夜は校庭で映画鑑賞がありました。文部省推薦映画でした。

後藤:小学校の15mプールは飛び込んで息をなくても向こうに着けたので、息継ぎを覚えませんでした。水深がとても浅く、下手すると飛び込んで頭を打ち、首を痛めるような危険をはらんでいました。元はと言えば防火用水槽だったんです。

荒山:10年一昔と言いますけれど、半世紀以上前からの出来事を、皆の記憶をもとにたくさんお話することができました。時の移ろいと共に商店の数が減り、地域社会の繋がりが希薄になってしまった事は仕方ないと思います。

しかし、いざという時を思うと「互助・共助」という普段の繋がりがたいせつではないのかと思います。今後数十年、変遷を辿り変わってゆく町を、願わくは見たいものです。



昭和20年代後半、お祭りの集合写真。後方に「氷」の看板。